

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100288		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	大分市大字駕野1183番地1		
自己評価作成日	平成30年5月18日	評価結果市町村受理日	平成30年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail/2014_022_kan=true&JigyosyoCd=4490100288-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	平成30年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活を重視して、季節に応じた行事(初詣、節分、花見、夏祭り、運動会、紅葉狩り、クリスマス など)を取り入れている。利用者様の残存能力に応じて、時間がかかってもできることを見つけて、利用者様の居場所作りに努めている。また、職員一人ひとりが入居者様と生活を共にしていることを意識し、ゆとりと関わりをもつようにし、落ち着いた環境で寄り添い、ゆとりとコミュニケーションを図り共に生活しています。ご利用者様、ご家族様に寄り添う介護を行い、地域の皆様とのお近所づきあいのできる開かれた施設であり続けるよう努力しております。

有限会社として他事業所との連携(全体会議・運動会・支援)も図られ、職員の意向の協議や共同でのイベントなど、組織力による取り組みの様子も伺えます。尊厳と個性を大切に、利用者本位の生活援助と家族の思いの把握に努めており、理念への立ち返りを支援への着眼点に、コミュニケーションや言葉かけによる和やかな雰囲気への配慮と笑顔で暮らせる支援への導き、家族との相互交流を糧に、利用者や家族の思いの実践に努めています。また、地域密着型施設としての施設の役割として、認知症の和を広げる取り組み“キャラバンメイト”への参加も表明しており、運営推進会議への職員の意識の向上にも期待が持たれます。職員間での自他評価も特徴の一つと言えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見えるところにに揭示している。職員全員が理念を共有できるようにし、管理者の指導の下、ケアにおいての実践に努めています。	法人理念と事業所の理念が揭示されています。支援状況の把握と課題点の見直しにおいては、理念への立ち返りを協議の中心に捉えており、理念に基づく支援の重要性が周知されています。	理念を実践(個の支援)に繋ぐ取り組みが行われています。仕組みづくりとして、理念に基づく目標(半年または一年)の協議の実践による支援・チームワークへの反映と向上の仕組みづくりに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や散歩、近所での買い物の際は挨拶を交わしている。また事業所の行事(夏祭り)には職員や利用者様のご家族はもとより地域の皆様の参加される等の交流を持っている。	散歩や買い物による、日常の交流による顔見知りのお付き合いを大切にしています。法人内の行事(夏祭り)には、家族の来訪や多くの地域の方々と共に楽しめるイベントとして、恒例になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やキャラバンメイト等に参加し認知症理解の輪を広げるための努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は毎回ご家族や地域の方々など多数の参加をいただき施設の状況や活動内容について報告をしそこでの貴重な意見はサービスの向上に活かしている。	公的機関や地域メンバー・法人内管理職職員・家族の参加により、施設・利用者の現況報告や情報交換が行われています。家族の思いを大切に、地域の中での暮らしの趣を大切に会議に繋げる姿勢が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には事あるごとに連絡をとり、会議への参加や相談、助言などを協力いただいています。また、市開催の研修、勉強会へは積極的に参加しています。	運営推進会議での交流・意見交換や、必要事項の伝達・課題等の相談が行われ、相互間の協調的な関係づくりに努めています。これからの取り組みでは、キャラバンメイトへの参加(認知症の理解の和を広げる努力)の意向を示しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束をしない介護方法について周知徹底している。言葉遣いにも留意し、精神的な苦痛を与えることのないよう日常より職員への意識付けをしている。	身心の虐待(拘束)を排除するケアの実践について全職員の意識の周知徹底に取り組んでいます。利用者の個性を大切に、職員間の共有・寄り添いの支援に繋ぐ姿勢が伺えます。共同的な支援に繋ぐ、チーム力アップに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、お互いに鏡となり注意喚起し虐待が見過ごされる事の無いよう注意を払い防止に努めている。また、虐待につながるストレスや不満がたまらない職場づくりにも務めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方々の必要に応じ市担当者をはじめとする関係者と話し合い、権利擁護や成年後見制度の活用の有無を検討する支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は施設長または管理者により、利用契約、同意書等書面に基づき十分な説明後納得されたうえ署名、捺印をしていただいている。入退居時には管理者が不安、疑問点を尋ね十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意思、要望については気軽にいつでも話していただけるような雰囲気作りに配慮し、日常の訪問時には意見・要望を聞くようにしている。	利用者・家族への声かけと挨拶を大切に、思いに添える支援に繋ぐ姿が見受けられます。面会時のコミュニケーションづくり、状況説明と家族の思い・家庭での姿の把握に努めるなど、利用者・家族・職員の相互間の交流を支援に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案については毎月のフロア会議の進行役を交代制にすることで、もれなく聞き取れるよう工夫している。これらの意見は毎月の全体会議で検討し運営に反映するよう努めている。	フロア会議でのモニタリングは、司会者(個々の利用者の現況報告等)を担当制(持ち回り)にする事で、モチベーションアップ・チーム力のレベル向上へと、取り組んでいます。年目標の提示と、自己評価の実施にも取り組んでいます。	個人目標の設定や自己評価の体制による見つけ直しを、支援の向上に繋げています。研修の見直し(有り方・記録等)、個の評価の仕組み(書式)の工夫など、更なる進展に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはその年目標の提出をしてもらいそれに基づき自らの業務を意識し、達成度を自己評価し各自の努力や実績を正しく給料に反映させ、向上心を持ち働けるような条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育の教育係を全職員が経験するシステムにて、教育係の職員も自己の介護をチェックできるよう工夫している。また外部の研修も受け入れやすいような勤務体制づくりにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	より良い施設を目指すためにも他施設との交流をはかり、交換実習の取り組みも積極的に行い情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて本人の思いの観察、把握に努め全職員がその情報を共有できるように努めている入所後は不安のないように傾聴を心がけ本人が納得されるまでこれを継続し信頼関係を築きます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居前の面接などでご家族の方に丁寧に話を聞き以後のコミュニケーションがスムーズに図れるよう努めサービスへ反映させる。また、いつでも意見や要望を出しやすい環境や関係づくりに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族も含め話し合った結果「その時」必要なサービスであれば、施設以外のサービス以外でも、同意の上対応に動いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方を人生の先輩として敬い自分の父母、祖父母と思い一つの大きな「生涯家族」となれるような介護を目指し喜怒哀楽を出せるようお互いが家族のような関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、連絡時には、現在の状況や様子を報告し、変化や気になることがあればその都度連絡を取るようになっています。定期的に会報を発行し年間の行事報告等もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設のイベント等への参加を通じ、継続した家族関係を過ごしていただけるよう努めている。知人や親せきの訪問があればその機会を大切にしましたの訪問の機会に繋げるように努めています。	利用者の高齢化に伴い個別対応の支援が中心となり、思いに寄り添う支援・笑顔を大切に捉えています。法人主催の夏祭り・運動会や、花見・紅葉狩り・初詣のイベントでは、家族へのお誘いも行われるなど、関係継続への援助が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を把握し、テーブルの配置など、孤立しないようにしている。問題が発生した時のみ職員が間に入って対応するが、それ以外は割り込まずお互いの個性が発揮できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者・家族がいつでも気軽に来所し、相談や近況報告が出来るような雰囲気作りに努めている。また、直接の要請があれば相談や支援にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に傾聴と観察で、本人の思いや、好きな事など理解できた時は職員間で情報交換をする。困難な場合は、本人の日々の行動、表情、しぐさからくみとるよう努めている。	仕草・表情から得る利用者の思いの把握、その気付きの視点を大切に援助の工夫(声かけ、職員の立ち位置)への取り組みが伺えます。家族との相互協力の反映による暮らしの向上にも努めています。夜勤中の会話も把握の手段としています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしや生活環境の情報収集に努め、なるべく今までの生活スタイルに合わせた暮らしができるような支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から心身の状況の把握に努め利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、各々にあった運動やお手伝いを含む作業にて、残存昨日の維持に努め、自立度が低下しないよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から話を聞き、また申し送り時や職員全員参加のモニタリングで、本人家族の意向や職員の意見や気付きを反映した介護計画の作成に努めている。	ユニット毎(全員参加)で行われる毎月のモニタリングにおける状態の変化に準じ、計画の策定と見直しが行われています。利用者の思い・家族の意向の把握と計画への反映の姿勢が伺えます。	利用者・家族の思いの把握と、実践へと繋ぐ姿勢が伺えます。介護計画の目標の達成への営み、サービス内容を日々の支援に繋ぐ仕組み(書式)づくり、計画を支援に活かす取り組みに期待が持たれます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、体調の変化や印象に残る本人の発言などを記録し、勤務交代時には申し送りとともに記録物で利用者様個々の状況を把握できるようになっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生じる状況に柔軟な対応でその時にベストと考えられる支援に努めている受診は家族の付き添いを原則としているが、困難な場合は職員が同行するなど柔軟な対応をしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや夏祭りや運動会などの参加で地域の人と交流しお互い顔見知りとなり地域の一員として溶け込み安心した生活が送れるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の希望を伺いかかりつけ医を決めている。かかりつけ医には必要な情報提供や連携で、受診や緊急時の対応に支障が出ないように努めている。また、希望により往診の支援も行っている。	利用者・家族の意向を十分伺いかかりつけ医が選択され、協力医療機関による訪問診療も行われています。受診前後の情報は、速やかに家族に報告され職員との共有が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝1度主に看護師によるバイタルチェックを実施。常勤の看護師により個々の心身の状況は把握されており、職員の気づきや報告にも適切な指示、指導もされかかりつけ医との連携も適切にされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院を訪問し、様子を観察しかかりつけの医療機関の関係者とは早期よりの連携に努め情報交換や相談などで入退院の受け入れがスムーズに運ぶよう環境整備に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明をし、同意の上契約しているが状況に応じその都度家族への確認を行っている。看取りを希望された時は本人・家族・主治医・看護と連携を図り納得のいく終末期を過ごせるよう支援している。	重度化や終末期について入所時利用者・家族に説明し同意を得ています。看取りの経験も数を重ね、家族の「最期まで見てもらいたい」という思いを大切に状況の変化に即した説明、意志確認を行い本人・家族・医療・施設が連携して支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は事務所に掲示している。急変時のマニュアルは常に目にする場所に掲示されている。看護師による指導も定期的に全職員に行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、年2回の防火訓練のうち1回は夜間想定で実地。毎日フロア毎に防火点検簿をチェックしている。近隣住民の方々にも施設を知っていただき協力を得られるよう努めている。	各施設による合同避難訓練が年2回実施されており、合同会議での反省と次回の対応について議論されています。器具や備品の安全点検も毎日行われ、防災意識の向上に努めています。地域住民との交流により協力体制が築かれています。	施設の構造(3階建て)を考慮した防災訓練が実施され、避難・対応の向上が図られています。年1回は、消防署の協力を得て避難訓練を実施され、更なる安全対策の強化に期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生き方や誇りを尊重し、親しみのある関係性を保ちながらも、常に人生の先輩として敬い接すると共にグループホームならではの暖かく親しみのある会話を心がける。	職員は、一人ひとりの人格を尊重し権利の保障を援助の基本原則に常に意識を持ち接しています。利用者への言葉かけに工夫を行い、本人の気持ちを大切にさりげない援助を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自らの意思が表現し易い雰囲気作りを心掛けています。表出の難しい利用者様についても、表情・行動を注意深く観察することにより、思い・希望に添った支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、思い思いに過ごせるように声掛け、支援し生活リズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添いながら季節にふさわしい過ごしやすい服装をしていただくよう声掛けしている。外出時には普段よりおしゃれして出掛けるようにもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べれない物や形態には栄養士や厨房に情報提供し、個別に対応している。また、月に数回入居者と職員と一緒におやつ作りやランチパーティーを開くなどし、買い出しや料理づくりを楽しんでいる。	外食産業により食事は提供されており、厨房会議を通して、嗜好や形態について個別の工夫が図られています。利用者と職員と一緒におやつ作りやランチパーティー・行事食・外食と食事が楽しみになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせる形態、量を提供し、医師の指示のある方には応じた食事や水分の提供を行っている。また、脱水等にも注意を払い、夜間の水分補給にも留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアの支援を行い口腔内の清潔は保持されている。口腔内に不具合が生じた際は、家族の了承を得た上で歯科医の往診を依頼している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導だけでなく、表情・言動からも排泄のタイミングを全職員が把握し、できるだけトイレでの排泄ができるよう努めている。	習慣や排泄パターンをキャッチして、職員が全員で把握しトイレでの排泄へと繋げています。声かけにも工夫を行い、さりげない支援で不安のない自尊心に配慮した援助に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立の工夫、看護師の運動指導、体調管理。また、職員による適切なトイレ誘導などで、スムーズな排泄が出来るよう取り組んでいる。状況に応じ、医師に相談、服薬等の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個々の体調や希望に合わせて、柔軟に対応している。また、入浴時のこだわりなどを把握し、手順を同じにして気持ち良い入浴を支援している。	週3回の入浴支援が行われていますが、入浴が困難な時は、時間を変更したり、職員が交代して2フロアで共同の支援となっています。一人ひとりの意向をくみ、その日の状態をみてゆったりと寛げる時間になるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調を考慮しながら、日中はなるべく活動的に過ごし夜間は安眠できるよう支援している。また、寝具は常に清潔を保ち、気持ちよく過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、副作用について理解できるよう薬局から出される薬情報はまとめられており、薬剤情報も職員全員周知出来るようにしている。服薬に変化があれば、看護師がすぐ医者に報告するようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者、家族からの情報をもとに生活歴から趣味、嗜好までの把握をし日常的に活かしている。得意分野や趣味などで、活躍できる場面を少しでも演出できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調・体力を考慮しながら天気の良い日には散歩や買い物同行のへ行き、地域との繋がりを確保している。ご家族も参加されたドライブ等も実地して。帰宅支援もご家族と話し合い、実現できるよう努めている。	これまでの生活の延長として、散歩や買い物に同行し、利用者も職員も気分転換が図れるよう努め、地域の方々との交流に繋がっています。家族の協力を得てドライブや外泊支援を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて自分でお金を管理したり使用できる方は、希望に応じ買い物支援を実施。できない方には、家族と相談の上希望に添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、プライバシーに配慮しながら対応し声を聞きたい、聞かせたいなどの気持ちに添うようにしてます。手紙に関しても代読や代筆により可能な限り気持ちに添えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはクリスマスや正月など年間行事の際に撮影した思い出の写真を飾るなどし、室内にいても四季を感じながら、和んでいただける空間作りに努めている。	明るい共用空間は、ゆったりと安全に過ごせるようソファやテーブルが設置され、壁面には四季が感じられる思い出の詰まった記念写真が飾られています。手作りの朝顔、風鈴がすだれに飾られ季節感にあふれて、穏やかに過ごせる工夫が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのテーブル席は、入居者の相性を考慮し、配置を決めている。窓際のソファは一人になったり、気の合うものが会話を楽しんだりゆったりと過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や身の回りの品で過ごせるようにしている。居室内では写真や思い出の品を自由に飾るなど、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	家具や思い出の家族写真、使い慣れた身の回りの日用品等、これまでの生活の継続が図れるよう家族と職員が情報を共有して、居心地よく過ごせるよう取り組みが図られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では一人一人の力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう手すりの設置や障害物の排除を行っている。職員は常に見守り状態で個々の自立と安全に留意している。		